

教育研究業績書

所属	職名	氏名	学位
現代文化学部	講師	山本 歩	博士(文学)

I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月日	概要
(1)教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) 短歌創作(神戸野田高等学校・現代文)	平成29年1月12日	高校2年生を対象に、短歌(希望者は俳句も)の創作を行った。教科書に掲載された俵万智や、若者に人気の高い穂村弘らの作品を参考に、自身の体験や生活感情などをテーマとし、短歌として発表させた。創作手順をステップ化したことにより、すべての生徒が表現力を発揮し、短歌を作り上げることが出来た。
文化体験としての小説創作(尚綱大学・「日本近現代文学講義Ⅱ」)	平成31年4月～令和1年7月	近代の創作文化を身近なものとして学ぶため、明治・大正期の文学作品・文範・小説指南などを参考に創作を体験させる。「叙事文」「抒情文」「人物描写」などの創作実践を経て、期末課題として小説の創作を行わせる。創作教室ではなく文化体験であることを念押ししたためか、受講生の躊躇も少なく、取り組みも活発であった。
(2)作成した教科書・教材・参考書 なし		
(3)教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし		
(4)その他教育活動上特記すべき事項 神戸文学館講座「神戸の女、神戸の魅惑 ——花袋・谷崎・プロレタリア文学」	平成28年8月13日	一般向け公開講座として、神戸と近代文学の関わりを論じた。田山花袋『蒲団』のヒロイン(神戸女学院の学生)や花袋の神戸イメージ、谷崎潤一郎『世』における「神戸」イメージ、神戸のプロレタリア文学運動と関西学院の詩人たち、谷崎の友人・岡成志の新聞小説『神戸の女』等にも言及し、近代文学史上で神戸に紐付けされた「女性的なエレメント」のイメージを確認した。

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻、号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
(著書)					
『한국일본기독교문학 연구총서11 일본문학속의기독교 XI (韓国日本キリスト教文学会研究叢書11 日本文学の中のクリスチャンXI)』	共著	令和1年7月	제이앤씨	한국일본기독교문학회 (韓国日本キリスト教文学会)	pp.325-350

『遠藤周作事典』	共著	令和3年4月	鼎書房	遠藤周作学会編	pp.44-45, p.175, pp.178-179
『小説のフィクションリティ 理論で読み直す日本の文学』	共著	令和4年9月	ひつじ書房	高橋幸平・久保昭博・日高佳紀編	
(論文)					
田山花袋 恋愛から「寂寞」へ—『女教師』『少女病』『蒲団』論— (修士論文)	単著	平成24年2月	関西学院大学大学院修士論文		
田山花袋『少女病』論—精神的行為としての「あくがれ」と復権する肉体—	単著	平成24年9月	「阪神近代文学研究」第13号, 阪神近代文学会		pp.25-37
田山花袋『白紙』の「小説作法」——創作背景・試み・方法——	単著	平成25年5月	「人文論究」(関西学院大学文学部紀要) 第63巻第1号		pp.41-57
メディアイメージとの暗闘～花袋『少女病』における試み～	単著	平成25年6月	「花袋研究学会々誌」第30号, 花袋研究学会		pp.1-8
『小説作法』における「忍耐と修練」	単著	平成26年3月	「日本文芸研究」(関西学院大学日本文学日本語学専修紀要) 第66巻第2号		pp.35-56
田山花袋『田舎教師』論——対等と懸隔のはざままで——	単著	平成26年3月	「日本文芸学」第50号(創立50周年記念号), 日本文芸学会		pp.235-251
「待ちかね」られた物語——『田舎教師』予告記事の考察	単著	平成26年12月	「人文論究」(関西学院大学文学部紀要) 第64巻第3号		pp.1-18
加藤武雄『悩ましき春』考——加藤武雄の「文章世界」体験として	単著	平成27年5月	「阪神近代文学研究」第16号, 阪神近代文学会		pp.32-46
田山花袋『蒲団』における「基督教信者」表象	単著	平成27年5月	「キリスト教文学研究」第32号, 日本キリスト教文学会		pp.75-87
三上於菟吉の「文章世界」体験——花袋への「礼讃」を踏まえて——	単著	平成27年6月	「花袋研究学会々誌」第32号, 花袋研究学会		pp.20-27
中村武羅夫の反逆——「文章世界」体験と通俗小説論——	単著	平成27年10月	「日本文芸研究」(関西学院大学日本文学日本語学専修紀要) 第67巻第1号		pp.27-42
岡成志の「大陸新報」連載小説『神戸の女』について	単著	平成29年3月	「日本文芸研究」(関西学院大学日本文学日本語学専修紀要) 第68巻特別号(細川正義教授退任記念号)		pp.187-205
文字と狂気——田山花袋『白紙』における約物の効用——	単著	平成30年3月	「尚綱語文」第7号, 尚綱大学文化言語学部・日本文学懇話会		pp.33-42

落合浪雄『着想描写小説著作法』とその原書——〈小説作法〉研究序説として——	単著	平成31年3月	「近代文学論集」第44号, 日本近代文学会九州支部		pp.29-42
「小説は面白くってはいけない」～なぜ自然主義文学を読むのか～	単著	平成31年3月	「尚綱語文」第8号, 尚綱大学文化言語学部・日本文学懇話会		pp.29-39
日本文学学院とその小説講義	単著	令和2年3月	「尚綱語文」第9号, 尚綱大学文化言語学部・現代文化学部・日本文学懇話会		pp.20-28
田山花袋『父の墓』の創作法に関する考察	単著	令和2年7月	「花袋研究会々誌」第37号, 花袋研究会		pp.16-29
大泉黒石の〈切支丹物〉	単著	令和3年3月	「尚綱語文」第10号, 尚綱大学文化言語学部・現代文化学部・日本文学懇話会		pp.26-36
大泉黒石『不死身』論——創作としての怪奇、抗いとしてのメタフィクション	単著	令和3年5月	「阪神近代文学研究」第22号, 阪神近代文学会		pp.1-13
研究ノート:土師清二＝赤松静太の文章修行—日本文学学院の指導と院生の熟達—	単著	令和4年3月	「尚綱語文」第11号, 尚綱大学文化言語学部・現代文化学部・日本文学懇話会		pp.14-28
『新文壇』上の小川未明——日本文学学院の研究として——	単著	令和4年3月	「尚綱大学紀要」第54号, 学校法人尚綱学園		「人文社会科学編」pp.1-14
(その他)					

Ⅲ 学会等及び社会における主な活動

平成 26年 4月	日本文芸学会 事務局員 (平成28年3月まで)
平成 27年 6月	花袋研究会 企画委員 (現在に至る)
平成 29年 4月	日本近代文学会関西支部 運営委員 (令和3年3月まで)